

中国のカトリック信者。教皇の言葉を知ることができる。

ローマ。2012年3月15日。

中国大陸では、政府のインターネット規制にもかかわらず、教皇の言葉を聞くことができる。このことはカトリック信者には慰めとなっている。バチカンのホームページは接続可能で、ローマとは断絶している愛国教会のホームページも教皇の写真を載せている。これはアジアのある国で働き最近ローマに立ち寄ったヨーロッパ人の司祭の証言である。彼は中国大陸にもしばしば足を運び、司牧を行い秘密裏に秘蹟を授けている。ゼニットのインタビューに応じてくれたこの司祭の話のいくつかの興味深いものを紹介したい。言うまでもないが、彼の名前は伏せておく。(中略) 中国では司牧活動が禁じられているため、入国は観光ビザか他の種類のビザに頼らねばならない。極めて稀ではあるが、司牧が許可される場合は、当局の厳しい監視の下に置かれる。西洋人のためにミサをたてることはできるが、現地の人のためであれば禁じられる。

文化大革命と愛国教会

中国共産党政府は1953年に宣教師と司祭を国外追放した後、4年後にローマとの絆を否定する愛国教会を作った。教皇に忠実であろうとするカトリック信者は地下教会に属することになった。

非公式の教会と地下教会

今日の中国では礼拝には一定の自由があるが、信教の自由はない。にもかかわらず、カトリック信者はその礼拝が可能な教会には行かず、自宅で礼拝をする。つまり、政府に従わないが政府の監視下にある非公式の教会というものがある。ということで、愛国教会、地下教会、非公式教会という三種類の教会が存在すると言える。その三つの教会の間には時に協力が見られることもある。大都市では隠れていることができても、農村ではすべてが筒抜けで、簡単に同じ中国人に密告されることがある。

礼拝はある程度自由であるが、信教の自由はない

上海ではミサに行き赦しの秘蹟に与ることが出来る。それは公式の教会である。(中略) 要するに信仰のある程度生きることは可能だが、十全に生きたければ、殉教を覚悟しなければならない。

「愛国教会の信者を頭から非難することはできない。彼らの多くはローマとの絆を望んでいる。ただ、誰に対しても同じレベルの英雄的態度を要求することはできない」と言う。愛国教会の司教や信者は心の中ではローマと一致していると言ったと教える。また、教義上の違いはないとも。「誠実な信仰をもつ司教や司祭を知っています。ただ、やはり日和見主義的な態度も感じます。言うまでもなく、愛国教会と非公式教会には言論の自由がありません。例えば、墮胎か幼児殺しを意味する政府の一人っ子政策を批判することはできないのです」。中国では2100万人のカトリック信者がいると推定されるが、統計はなく、13億人の人口からすればそれも微々たるものである。「迫害の状態にあることを考えると、信者の信仰はとても誠実なものであることがわかる」と言う。

全体主義の体制

(略) 彼の意見によれば、共産党政府はすべてを完全にコントロールする必要がある。政治だけでなく、宗教も。と言うのは、宗教は根絶せねばならない悪であるから。それは仏教や他の宗教も同じであ

るが、カトリックはその普遍的本性と高い道德性によって要注意団体となっている。

「政府は教会を恐れています。それは政府にとっては危険きわまりない教えである人間の尊厳と真理を説くからです。共産主義にとっては、重要なのは全体で、個は意味ももちません。個人を大切にすほんのわずかな空気は教会から生まれています。教会は、墮胎が義務、または普通のこととされている国で、捨て子の世話に当たっています」

秘密の黙想会

秘密裏にした黙想会のことを話してくれた。「病院に勤めている女性がいました。彼女は妊娠していると打ち明けました。それは大きな喜びだと答えました。彼女は泣き出して、病院では妊婦の監視が行われていて、もし子供を墮ろさないなら仕事を失うのです、けれど自分は子供を守る決意です、と言いました」。

黙想会を開いたりや集会を持ったりするなら、逮捕を覚悟しなければならない。最近の事件だが、ローマの聖十字架教会の教会法学部を卒業した司祭、ジョゼフ・WangHu は、数人の人と宗教的な集まりを持ったがために逮捕された。数日後に釈放されたが、「今は当局の監視下に置かれている。政治的再教育のクラスを受講しなければならず、電話を持つことも許されない。彼は他に留置場にいる二人の司祭も知っている」と言い、こう結んだ。「戦いは表面的な信仰を捨てることから始まります。中国の深刻な現実を知る人はほんの一握りです」と。



湯漢枢機卿 (1939 ~)

1996年、ヨハネ・パウロ2世、香港補佐司教

2009年、ベネディクト16世、香港司教に任命。

2012年1月、ベネディクト16世、枢機卿に任命。

ベネディクト16世は、2007年、毎年5月24日を中国の教会のために祈る日と定め、「余々（シェエン）の聖母への祈り」を作られた。

参考。http://www.cbcj.catholic.jp/jpn//news/pray_china.htm